

香美町 農委だより

No.42
令和6年9月26日発行

発行 香美町農業委員会
編集 香美町農業委員会
情報部会

兵庫県美方郡香美町香住区香住870-1
電話 0796-36-0846



佐津谷土地改良区 田園風景

平成元年9月から平成7年3月にかけて、71ヘクタールの農地において21世紀型水田農業園場整備が執り行われました。このとき、10a区画から60a区画へ整備され、現在に至っております。

当初は、耕作者も多く携わっておりましたが、近年は高齢化の影響で耕作者も少なくなってきました。一耕作者の面積が増える一方ですが、この田園風景を後世に繋ぐべく、皆頑張って耕作されています。

現在では、スマート農業の一環として、ドローンを活用して防除を行っている農家さんもおられます。この取り組みは、稲作栽培管理の省力化につながり、農家の担い手対策としても注目されています。

本号の主な記事

- ◆頑張っている農家の皆さんの声…………… P2~3
- ◆編集後記…………… P4
- ◆シリーズその②1 我が村の自慢…………… P4

我が村の自慢

シリーズ
その21

亀居堰の復旧記念碑

1934年(昭和9年)9月21日、室戸台風が室戸岬や大阪、神戸に上陸しました。最大瞬間風速が秒速約60メートルを記録し、この強風によって4メートルを超える高潮が発生したそうです。強風による建築物の倒壊や列車の転覆、高潮による浸水など、多くの被害が出ました。

当時の香住町内においても浸水等の甚大な被害を受けましたが、長い年月をかけて復旧し、1937年(昭和12年)に今の亀居堰や大乘寺橋、堤防が完成しました。

亀居堰付近には復旧の記念碑が建てられており、町の農業遺産でもあります。

香住区森 前田 精一



編集後記

今回の表紙はドローンによるカメムシ防除の様子ですが、我が家のプチスマート農業は、自作リモコンボートによる水稲の除草剤散布と無農薬米のチェーン除草です。

除草剤散布については、初期除草のフロアブル剤を2~3倍に薄めて散布しています。自作リモコンボートでの散布だと、田んぼの中に入らなくて済むので大変楽です。今では、2回目の除草も粒剤だったのをフロアブル剤に変えて散布しています。

チェーン除草については、昨年1週間に1回で試みたところ草だらけだったので、今年は田植え3日後から週2回を3週間やってみました。効果は少しマシかなという程度ですが、遊び感覚で楽しくやっています。

最近ではテレビや新聞等で、米不足により米の価格が上がっているというニュースを見かけます。私たち生産者は昨年秋季には出荷している関係ないのですが、どこが儲けているのでしょうか。せめて、6年度産の価格は上がって欲しいものです。

今年の夏も暑くなりそうなので、収量、品質がどうなるか心配ですが、みなさん頑張っていきたいと思います。

香美町農業委員会

情報部長 岡田 久志



頑張っている農家の皆さんの声

「梨に導かれて」

香住区上計
宮川 司さん

3月に群馬県から香美町に引っ越してきて、4月に「香住なしの学校」の第2期生として入学しました。梨の強烈な美味しさに出会って感動したときの味が忘れられませんでした。「いつの日か、自分が味わったあの感動を与えてくれた梨を自分の手で生産し、食べた人を笑顔にできたらどれほど幸せだろうか。」そんな思いが芽生えました。



一時期はその思いを見て見ぬふりしてみたり、諦めようかと思つたこともありましたが、やっぱり自分の心の中でその思いが燻り続けていました。

そんな中、「香住なしの学校」という研修機関がある聞き、この機会に自分の思いを現実にしたいと決心しました。長い間、思い悩み続けた分だけ、決断してからはとても早く感じました。インターンシップに参加したり、面接を受けたり、香美町での居住地を確保したりするうち、着々と燻り続けた思いが晴れていったことに喜びを感じたことを

覚えています。

現在、私は研修園で梨の栽培について身をもって体感しながら勉強しています。寒暖差の激しい中で作業は大変ではあるものの、とても充実した毎日を送っています。

この充実した日々に至るまでに多くの方に出会い、支えていただきました。移住にあたり、古民家の各種手続きや改修工事をしてくださった行政書士、香美町企画課、地元工務店の方々。

なしの学校への入学にあたって、懇切丁寧な事前説明と入念な準備をしてくださった新潟泉農業改良普及センター、香美町農林水産課、地域おこし協力隊、地元農家の方々。研修資材や備品の準備をしてくださったたま農業協同組合の方々。

いつも作業を終えて帰ってくる時温かく声をかけてくださる地元住民の方々。他にも多くの方々を支えられ、今があるのだと実感します。この場をお借りして心より深く感謝申し上げます。

梨に導かれて多くの方と出会い、そしてこれからも新たな出会いがあるのかと考えるとわくわくします。

このご縁を大切にしながら、これからも頑張りたいと思います。

そして、「香住なしの学校」の先輩である第1期生の方の思いと私の思いを第3期生に伝えていくことも、第2期生としての役割ではないかと考えています。

いつの日か、この思いの連鎖が香美町の農業や地域の活性化に少しでもつながればと思います。

「労働時間とコストを削減し、一人で楽しめる農業を目指して」

村岡区山田
小西 敏さん

私は、今年3月で役場を退職し、4月から水稲を中心とした農業を行つていきます。きっかけは、地域で長年

水稲を行つてこられた農家の方々から、「高齢等により耕作を継続することを断念せざるを得ない。地域の農地を守るため、耕作を引き継いでもらえないか。」との相談を数年前よりいただいていたことにあります。

幼い頃より父の背中を見て、農業には興味とやりがいを感じていましたが、労働の割には見合う対価が得られていないことが問題と感じていました。

また、農繁期には家族総出で手伝うのは当たり前で、男性と同じ作業をしないといけない女性にとつてはとても重労働だと思えます。

今までのやり方を踏まえながら、大幅に労働時間とコストを削減して、今より楽しく地域の農地を守れないか。できれば農繁期でも一人で、今までより楽に作業ができないかと考えていました。

そこで私は、直播きで水稲の耕作ができることを知り、チャレンジすることにしました。

「直播き」は、不耕起のうち直接種子を播種する方法や、代掻きをした水田に

直播機で条蒔きする方法で取り組みました。

ところが、現在は苗移植が主流で地域内には直播きの実施者がほとんどなく、過去に経験のある方や機械メーカーの方、JA職員の方々と相談しながら、試行錯誤して行いましたが、コーティング種子を作る過程で2.5ヘクタール分の種子を死滅させてしまつたり、代掻きした圃場に種子を蒔く過程で、種子が土に埋没して発芽しなかつたり、ヒエ等の草に覆われたりと失敗の連続でした。

その都度、JA職員の方々等との相談と対策を繰り返して、失敗の経験を成功へと繋げるために日々勉強しています。

今年の耕作面積は9ヘクタール程ですが、苗を運ぶ作業等が削減され、春の農作業は一人で行うことができました。

そして、移植苗に対して経費を30%削減することができました。

来年度に向けては、移植苗に対して55%以上削減できることを目指しています。秋の稲刈りに向け、肥料と



水管理を徹底し、倒れない稲を育てることを主に考え、できる限り管理作業の省力化も考えながら、秋の収穫期を笑って迎えられるように農作業に取り組んでいきます。

今後益々、農家の高齢化や後継者不足が進むと考えられますが、労働時間と内容が大幅に削減でき、コストも削減し、農業収入が増えるだけで生活が成り立つようになれば、若者などの多くの農業への関心が高まり、地域が活性化するのではないかと期待しています。

これからも農業を楽しみながら、新しいことにチャレンジしていきたいと思えます。

「牛飼いの世界へ突入！」

小代区石寺
藤原 亮太さん

私の仕事は「牛飼い」です。私は埼玉県出身で両親は非農家、祖父は小代区で牛飼いをしていますが、周りとは比べると牛飼いと馴染みのない環境に生きてきました。牛を見たりするのも夏休みや冬休みに祖父の家に行き、牛飼いのお手伝いをするときくらいでした。

転機が訪れたのは私が就職活動をするときで、就活活動が始めるタイミングです。実はこのときに祖父が牛飼いをやめようかと考えていることを知りました。

初めは残念だなと思うだけで、自分の仕事にしようとは考えていませんでした。高校も大学も普通科でしたし、知識のない人間にはできないと思つていたので、さしつかえなく断りました。

しかし、小代の友人と話をしている中で、小さい頃から見てきた「牛飼い」という仕事が終わってしまうこと



にふと悲しくなりました。そこで、自分にこの仕事ができないかと思い、祖父に連絡しました。祖父には「仕事をしながら日々勉強すればできないことはない」といわれ、この世界に飛び込む決心をしました。

実際に仕事にするまでは、紆余曲折がありました。今では、様々な人に恵まれ、助けられながら、この歴史ある小代地区で「牛飼い」を地道に頑張っています。

まだまだ勉強中の身ではありますが、良い牛を育てる繁殖者を目指してこれからも日々頑張っていきたいと思えます。